2027 年度
東京西徳洲会病院 歯科口腔外科
初期臨床研修プログラム

東京西徳洲会病院　臨床研修の理念と基本方針

＜理念＞

生命を安心して預けられる病院。健康と生活を守る病院。

＜基本方針＞

1 医療技術・診療態度の向上にたえず努力する

2 患者様中心の医療を実践する

3 個々の持つ専門的知識と技術を有機的に結びつけることで、患者様にとって最適な医療を提供するチーム医療を実践する

4 地域に密接した総合病院として、地域で必要とされる診療科の充実を図り、救急医療では、地域救急医療センターとしての役割を担う。

東京西徳洲会病院

東京西徳洲会病院

歯科口腔外科卒後臨床研修プログラム

【プログラムの特色】

このプログラムは、東京西徳洲会病院　歯科口腔外科における、歯科医師に対する卒後2年間の初期臨床研修プログラムです。当施設ではあらゆる口腔外科疾患、特に頭頸部癌の治療、顎顔面外傷、救急での治療に積極的に取り組んでいます。頭頸部癌に対しては手術療法を中心に、進行癌に対しては化学放射線療法を行っています。研修期間において全身疾患を有する患者の歯科治療や埋伏智歯抜歯などを中心にインプラントも含む歯科医療全般に対する基本的な知識と技術の習得を目指します。

【プログラム責任者】

濵田　智弘　　歯科・口腔外科部長

博士（歯学）/日本口腔外科学会認定口腔外科専門医・指導医/国際口腔顎顔面外科専門医（FIBCSOMS）/日本口腔診断学会認定医・指導医/口腔顔面神経機能学会口唇舌感覚異常判定認定医/がん治療認定医（歯科口腔外科・指導責任者）/日本口腔腫瘍学会暫定口腔がん指導医/厚生労働省認定歯科医師臨床研修指導医/日本歯科専門医機構歯科専門医（口腔外科）

【研修施設とその概要】

●東京西徳洲会病院　歯科・口腔外科

外来診療室　2　室（ユニット9台）

病床数　45床

●医療法人徳真会わかば台デンタルクリニック（協力型（Ⅱ））

ユニット15台

【研修期間】

管理型（東京西徳洲会病院　歯科口腔外科）

2年目管理型研修期間内に含む協力型（Ⅱ）臨床研修施設

医療法人徳真会わかば台デンタルクリニック（一般歯科研修）

1 年目ローテーション例

東京西徳洲会病院（12か月）

2 年目ローテーション例

東京西徳洲会病院（11か月）

協力型（Ⅱ）臨床研修施設（医療法人徳真会わかば台デンタルクリニック

30日間）

【指導歯科医リスト】

●東京西徳洲会病院　歯科・口腔外科

木島　毅　　口腔外科部長　　（研修管理委員長、指導歯科医）

濵田　智弘　口腔外科部長　　（プログラム責任者、指導歯科医）

松本　学知　口腔外科副部長　（指導歯科医）

墓田　真弥　口腔外科医長　　（指導歯科医）

●わかば台デンタルクリニック

小川　真　　院長・研修実施責任者（指導歯科医）

【指導体制】

曜日	指導内容	指導担当
月	外来(有病者歯科、小手術)	松本　学知　他指導歯科医2名
火	病棟・外来(顎関節専門外来、外来手術)	木島　毅　他指導歯科医2名
水	外来(有病者歯科、小手術) 午後全身麻手術	濵田　智弘　他指導歯科医3名
木	病棟(全身管理 術前術後管理)全麻手術	濵田　智弘　他指導歯科医3名
金	午前外来(有病者歯科、小手術)	濵田　智弘　他指導歯科医3名
	午後全麻手術	濵田　智弘　他　指導歯科医3名
	症例検討会、アフタヌーンセミナー	濵田　智弘　他指導歯科医3名
土	病棟(全身管理 術前術後管理)	墓田　真弥　他指導歯科医2名

【臨床研修の目標】

1 歯学部で学んだ基本的知識・技術・態度を体系化し、実践する。

2 生涯教育を受ける習慣・態度を有する。

3 科学的な探求能力を身につける。

4 高い倫理観と豊かな人間性、広い社会性を身につける。

5 病める人の全体像を捉える全人的医療を身につける。

6 患者様の持つ問題、家族のニーズを正しく把握し解決する能力を身につける。

7 他の専門職と連携する能力と協調性を身につけチーム医療を実践する。

8 後輩の医師に対し指導できる能力を有する。

9 医療における経済性を学ぶ。

【タイムスケジュール例】
月 外来（有病者歯科、小手術）
火 病棟・外来（顎関節専門外来、外来手術）
水 外来（有病者歯科、小手術） 午後全身麻手術
木 病棟（全身管理 術前術後管理）全麻手術
金 午前外来（有病者歯科、小手術）
　午後全麻手術
　症例検討会、アフタヌーンセミナー
土 病棟（全身管理 術前術後管理）

【研修の到達度評価方法】
研修の目標達成状況の評価については、オンライン歯科医師臨床研修評価システム（DEBUT2）の研修歯科医評価票Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを用いて行う。その結果を歯科臨床研修管理委員会にて共有し評価する。評価票は歯科臨床管理委員会にて保管する。また各研修歯科医は研修プログラムに従い随時、自己評価結果（研修到達度、経験症例数、検討会・学会発表症例数）を研修歯科医手帳に記入する。研修修了時にはすべての項目に**レベル3**の評価が得られるよう努力しなければならない。これらの結果を踏まえて、「歯科医師臨床研修の目標の達成度判定票」を用いて到達目標の達成状況について評価する。

【修了判定を行う項目】
●臨床研修における経験症例目標数の達成
●研修実施期間の評価（休止期間が90日以内）
●到達目標の達成度
●臨床歯科医としての適性

【修了判定を行う基準】
DEBUT2を用い「指導歯科医評価レベル3以上」、歯科医師臨床研修の目標の達成度判定票既達」、「臨床研修における経験症例目標数」、「研修実施期間の評価（休止期間が90日以内）」、「到達目標の達成度評価」、「臨床歯科医としての適性の評価」を確認し、歯科臨床研修管理委員会にて当該個別プログラムの研修修了を認定する。研修修了が認定された者に初期臨床研修修了書を交付する。

【臨床研修修了後のコース】
当院歯科口腔外科スタッフとして勤務が可能
【2026年度 募集概要(東京西徳洲会病院)】
■募集人数 3名
■研修期間 2年間
■研修開始日 2027年4月1日
■待遇
・身分:医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院常勤職員(臨床研修医)
・給与:基本給 270,000円／月 時給:1,695円
賞与 360,000円／年
・手当:時間外手当、当直手当、通勤手当、診療手当、当直手当、住宅手当、
扶養手当
・厚生:組合健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険、に加入します。
・休暇:年次休暇1年目10日・2年目11日付与、服忌休暇など
・宿舎:研修歯科医用3戸、その他賃貸者には住宅補助制度あり
・研修歯科医室 :有
・勤務時間 (研修内容により4週8休制の為、勤務曜日の変動が生じます)
:月曜日から火曜日 8時30分～17時00分(休憩1時間)
: 水曜日から金曜日 8時30分～18時30分(夕方診療1時間30分・休憩1時間)
: 土曜日 8時30分～12時30分
・休日:年間休日110日
・その他休日:有給休暇1年目10日 2年目11日、リフレッシュ休暇4日付与、慶弔休暇
・ハラスメントについて:職員相談窓口・徳洲会本部相談窓口あり、
看護師による相談室あり、産業医面談あり

■応募の方法
・応募資格:原則として2027年3月に歯科医師免許取得見込みの者
・説明・見学会:2026年4月～9月
・採用試験:2026年8月～9月頃
・選考試験:筆記試験(記述式:歯科口腔外科)、面接試験
・試験日程:後日発表
・試験会場:東京西徳洲会病院
・出願書類提出先:〒196－0003 東京都昭島市松原町3丁目1－1
医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院 人事課内田 宛

・採用：歯科医師臨床研修マッチングに参加しますので、マッチング終了後に採用内定を通知します。2026年度歯科医師国家試験に合格した歯科医師免許取得者を正式に採用します。

■健康管理
・年2回健康診断、インフルエンザワクチン、肝炎ワクチン
・針刺し事故対策マニュアル完備

■指導体制（指導方法含む）
当院では指導歯科医の指導監督の下、上級歯科医による屋根瓦方式を基本としています。
（ア）指導歯科医は、研修歯科医へ研修指導及び研修状況の評価を行う
（イ）プログラム責任者は、研修歯科医の研修状況の評価を基に、到達目標までの状況を適宜把握し、研修修了時までに到達目標が達成できるよう調整するとともに、歯科臨床研修管理委員会に到達目標の達成状況を報告する
（ウ）指導歯科医は、指導歯科医講習会を受講した臨床経験 7 年以上の歯科医が指導する
（エ）指導歯科医は、研修歯科医を担当歯科医として症例に偏りが起こらないよう受け持ち患者を配置し、指導歯科医の指導下で治療を実施する
（オ）指導歯科医は、研修歯科医の作成するレポートの支援及び指導する
（カ）研修歯科医の受け持ち患者は、症例や治療内容により単独または複数で担当する場合があり、適宜、指導歯科医が指示・指導する
臨床研修における経験症例目標数　【外来診療】 248 例【訪問診療】 0 例
（※訪問診療の代替として、他科入院患者の往診治療を経験する）
研修歯科医一人あたり必要症例数　【外来診療】 248 例【訪問診療】 0 例
目標症例数を達成した研修歯科医の割合　100%（前年度実績）

■研修記録・評価並びに評価方法
（ア）2年間の研修期間で各自が担当した症例やレクチャー・カンファレンスなどの実績は、配布した研修歯科医手帳に、各自がその都度記載し記録として保管をする。研修修了後に歯科臨床研修管理委員会がその実績を調査し、到達目標の達成度を確認する
（イ）オンライン歯科医師臨床研修評価システム（DEBUT2）の研修歯科医評価票Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを用いて行う。また適宜研修の記録を DEBUT2 にて行なう。
（ウ）研修修了後には、研修歯科医から下記の項目に関して評価をする
① 研修プログラムの評価（自己評価）：プログラム目標を達成したか否かに関し

て

② 研修プログラムと研修施設の評価：プログラム全体や研修施設としての良し悪しに関して

③ 指導歯科医及び上級歯科医の評価：プログラム指導を行った歯科医師に関して

④ プログラム責任者の評価：プログラム責任者の評価に関して

■臨床研修プログラムの見直し手順

（ア）臨床研修プログラムは、歯科臨床研修管理委員会で社会のニーズに応え、当院の実情に合ったものであるか評価し、必要であればその都度改善していく。研修管理委員長及びプログラム責任者が臨床研修プログラムの見直しを指導歯科医に要請し、3 月の期間に行なった後、プログラム変更を申請する。

（イ）研修歯科医の「研修プログラムと研修施設の評価」は、随時参考資料として使用する

■その他

・歯科医師賠償責任保険加入：医療機関加入、個人の加入は任意（費用については一部補助あり）

・外部研修会、学会参加費用：自費（一部補助あり）

■ 一般目標【GIO】

- **症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医の一人として〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に診断・治療を実践する**
- **一人一人の患者の全身状態, 社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療の重要性を理解し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力を習得する**
- **生涯にわたる研修を行うために、より広範囲に歯科医療における知識、態度及び技能を習得する態度を養う**

■ 研修標準到達目標【SBO】

A.歯科医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

   社会的使命を自覚し、患者への説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な歯科医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

   患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともに QOL に配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

   患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

   自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B.資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

   診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

   ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
   ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
   ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
   ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
   ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2. 歯科医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
④ 歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する。
⑤ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

3.医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。

① 頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。
④ 高度な専門医療を要する場合には適切に連携する。

4. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
② 診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。
③ 患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。
④ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

5.コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

6.チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

① 歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。
② 多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
③ 医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る。

7.情報・科学技術を活かす能力

① 情報倫理(AI 倫理を含む)及び個人情報を含むデータ保護に関する原則を理解し、実践する。
② 健康・医療・介護に関わる情報倫理及びデータ保護に関する原則を理解し、実践する。
③ 医療・保健・介護分野での Internet of Things (IoT)技術や AI 等のデータの適切な活用について理解する。

8.社会における歯科医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会 に貢献する。

① 健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。

② 地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。

③ 予防医療・保健・健康増進に努める。

④ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。

⑤ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。

9.科学的探求

医学と医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学医療の発展に寄与する。
① 医療上の疑問点に対応する能力を身につける。
② 科学的研究方法を理解し、活用する。
③ 臨床研究や治験の意義を理解する。

10. 生涯にわたってともに学ぶ姿勢

医療の質の向上のために常に省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。
① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
② 同僚、後輩、医師以外の医療職を教え、共に学ぶ。
③ 国内外の政策や医学及び医療の最新の動向(薬剤耐性菌等を含む)を把握する。

C.基本的診療業務

1. 基本的診療能力等

本項目は、「B.資質・能力」のうち、「2.歯科医療の質と安全の管理」「3.医学知識と問題対応能力」「4.診療技能と患者ケア」「5.コミュニケーション能力」に相当する具体的到達目標を示す。

(1) 基本的診察・検査・診断・診療計画 (症例数｜6 例以上－①～⑥を一連として)

① 患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。
研修内容:初診時医療面接、再診時医療面接

② 全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。
研修内容：口腔内診察、頭頚部診察、各種検査の必要性の判断、診察所見の解釈

③ 診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。
研修内容：口腔内診察、頭頚部診察、各種検査の必要性の判断、診察所見の解釈

④ 病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。
研修内容：担当患者の診断に関する口頭試問

⑤ 診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。
研修内容：診療計画に関するカンファレンス参加、プロトコール作成

⑥ 必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。
研修内容：患者への病状説明、インフォームドコンセント、同意書の取得

（2）基本的臨床技能等

① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的手技を実践する。
研修内容：ブラッシング指、フッ化物歯面塗布　5 例

② 一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。

a.歯の硬組織疾患　計 11 例
：レジン修復（10 例以上）、インレー修復（1 例以上）

b.歯髄疾患　計 4 例
：抜髄（2 例以上）、感染根管処置（2 例以上）

c.歯周病　計 10 例
：歯科保健指導（5 例以上）、歯周検査・スケーリング・ルートプレーニング（5 例以上）

d.口腔外科疾患　計 20 例
：乳歯抜歯（5 例以上）、永久歯抜歯（10 例以上）、埋伏歯抜歯（5 例以上）

e.歯質と歯の欠損　計 7 例
：歯冠補綴（5 例以上）、部分床義歯（1 例以上）、全部床義歯（1 例以上）

f.口腔機能の発達不全、口腔機能の低下
：口腔機能低下症の検査（20 例以上）

③ 基本的な応急処置を実践する。

研修内容：術後出血・疼痛・外傷・炎症・歯冠修復物の脱離・義歯破損への対応　10 例

④　歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。
研修内容：担当患者の診療に必要なバイタルサインを測定し、全身状態を評価する。
（20 例以上）

⑤　診療に関する記録や文書（診療録、処方箋、歯科技工指示書など）を作成する。
研修内容：診療録・処方せん・歯科技工士指示書・各種検査指示書・診療情報提供書、診断書の作成　30 例

⑥　医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。
研修内容：病院全体で行われる研修会への参加、院内で実施される e-ラーニングの受講　6 例

⑦　インシデント、ヒヤリ・ハット事例等を経験したら、報告書等を作成するとともに、その発生要因を分析することにより、必要な対策について理解し、実践する。（4 例以上）
研修内容：インシデントレポートの記載、医療安全管理委員会への出席

（3）患者管理

①　歯科治療上問題となる全身的疾患、服用薬剤などについて説明する。
研修内容：高血圧および糖尿病で医科診療中の患者に、歯科治療上の問題点と服用薬剤等について説明する。（10 例以上）

②　患者の医療情報などについて、必要に応じて主治医などと診療情報を共有する。
研修内容：全身疾患や服薬状況を有する患者に対し、必要に応じて主治医へ診療情報提供書による照会を行い、医療情報を共有したうえで安全な歯科治療を実施する　5 例

③　全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。
研修内容：心拍および血圧の状況に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う（5 例以上）

④　歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。
研修内容：院内で実施される e-ラーニングの受講、診療科内で実施される研修会・実習の参加、診療の見学　2 例

⑤　入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。
研修内容：入院患者に療養上の留意事項を説明し、周術期口腔機能管理を行う。（20 例以上）

（4）患者の状態に応じた歯科医療の提供

①　妊娠期、乳幼児期、学童期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。
研修内容：患者の各ライフステージに応じた予防管理と口腔機能管理の実践、見学　5 例

②　各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。
研修内容：患者の各ライフステージに応じた全身状態の評価と歯科医療の実践、見学　5 例

③ 障害を有する患者への対応を実践する。

研修内容：身体的または知的障がいを有する患者の歯科診療に必要な対応を行う（3 例以上）

2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解

本項目は、「B.資質・能力」のうち、「6.チーム医療の実践」「7.社会における歯科医療の実践」に相当する具体的到達目標を示す。

(1) 歯科専門職間の連携

① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理などの際に連携を図る。
研修内容:予防処置、口腔管理について歯科衛生士とケースカンファレンスを行う。
歯科衛生士と連携を図りながら口腔衛生管理を実践する。3 例

② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。
研修内容: 歯科技工士の役割を理解した上で適切に歯科技工指示書を作成する。
歯科技工士と技工物について連携を図る。3 例

③ 多職種によるチーム医療について、その目的や各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。
研修内容:多職種との院内で実施される合同カンファレンスの参加、学会参加、研修会参加 5 例

(2) 多職種連携、地域医療

① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。
研修内容: 院内で実施される研修会への参加、診療科内で実施される研修会への参加 1 例

② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。
研修内容: 院内で実施される研修会への参加、診療科内で実施される研修会への参加 1 例

③ 在宅療養患者や介護施設等の入所者に対する介護関係職種が関わる多職種チームについて、チームの目的を理解し、参加する。
研修内容: 訪問歯科診療の参加・見学、院内で実施されるカンファレンスの参加 3 例

④ 訪問歯科診療の実施にあたり、患者に関わる医療・介護関係職種の役割を理解し、連携する。
研修内容: 訪問歯科診療の参加・見学、院内で実施されるカンファレンスの参加 3 例

⑤ 病院における歯科の役割を理解し、病院内の医科との連携を経験する。
研修内容:訪問歯科診療の参加・見学、病棟入院患者に対する口腔管理への参加・見学、
院内で実施されるカンファレンスの参加 3 例

⑥ がん患者等の周術期や回復期等の入院患者の等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。
研修内容:口腔ケアチームへの参加、院内で実施されるカンファレンスの参加 3 例

⑦ 歯科専門職が関与する多職種チーム(例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等)について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。
研修内容:栄養サポートチーム・口腔ケアチーム、摂食嚥下リハビリテーションチームの参加、院

内で実施されるカンファレンスの参加　3 例

⑧ 入院患者の入退院時における多職種支援について理解し、参加する。
研修内容：院内で実施される入退院支援カンファレンスの参加　3 例

⑨ 地域における病院歯科の役割を理解し、病院歯科と歯科診療所の連携（歯科医療機関間の連携）を経験する。
研修内容：地域の歯科診療所との紹介・逆紹介及び情報共有の見学　3 例

（3）地域保健

① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。
研修内容：診療科内で行われる研修会の参加とレポート作成　1 例

② 保健所などにおける地域歯科保健活動を理解し、説明する。
研修内容：診療科内で行われる研修会の参加とレポート作成　1 例

③ 歯科健診を経験し、地域住民に対する健康教育を経験する。
研修内容：歯科健診に参加する　1 例

（4）歯科医療提供に関連する制度の理解

① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。
研修内容：診療科内で行われる研修会の参加とレポート作成　1 例

② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。
研修内容：診療科内で行われる研修会の参加とレポート作成　1 例

③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

研修内容：診療科内で行われる研修会の参加とレポート作成、オリエンテーション　1 例

■ 研修方略【LS】

【LS1】 指導歯科医による指導監督下に、実務研修を行う

【LS2】 カンファレンスで、外来新患、新入院、術前・術後等の症例についての
プレゼンテーションを行う

【LS3】 回診に参加する

【LS4】 指導歯科医とともに入院から退院までの検査治療を計画実践する

【LS5】 診療録、退院時サマリーを記載する

【LS6】 手術に参加する

研修内容【EV】
評価票Ⅰ
（1. 基本的診療能力）
（1）基本的診察・検査・診断・診療計画
①患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。
②全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。
③診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。
④病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。

⑤診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。
⑥必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。
（2）基本的臨床技能等
① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。
② 一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。
a.歯の硬組織疾患 b.歯髄疾患 c.歯周病 d.口腔外科疾患 e.歯質と歯の欠損 f.口腔機能の発達不全、口腔機能の低下
③ 基本的な応急処置を実践する。
④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する
⑤ 診療に関する記録や文書（診療録、処方せん、歯科技工指示書等）を作成する。
⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。
（3）患者管理
① 歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。
② 患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。
③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。
④ 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。
⑤ 入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。
（4）患者の状態に応じた歯科医療の提供
① 妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。
② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。
③ 障害を有する患者への対応を実践する。

評価票Ⅰ
（2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等）
（1） 歯科専門職の連携
① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。
② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。
③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の

役割を理解し、説明する。
（2） 多職種連携、地域医療
① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。
② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。
③在宅療養患者や介護施設等の入所者に対する介護関係職種が関わる多職種チームについて、チームの目的を理解し、参加する。
④ 訪問歯科診療の実施にあたり、患者に関わる医療・介護関係職種の役割を理解し、連携する。
⑤ がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。
⑥歯科専門職が関与する多職種チーム（例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等）について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。
⑦入院患者の入退院時における多職種支援について理解し、参加する。
（3）地域保健
① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。
② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。
③ 保健所等における地域歯科保健活動を経験する
④ 歯科健診を経験し、地域住民に対する健康教育を経験する。
（4） 歯科医療提供に関連する制度の理解
① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。
② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。
③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

評価票 II
1.医学・医療における倫理性
2.歯科医療の質と安全の管理
3.医学知識と問題対応能力

4.診療技能と患者ケア
5.コミュニケーション能力
6.チーム医療の実践
7.社会における歯科医療の実践
8.科学的探究
9.生涯にわたって共に学ぶ姿勢

評価票 III
1.社会的使命と公衆衛生への寄与
2.利他的な態度
3.人間性の尊重
4.自らを高める姿勢

研修歯科医評価票

研修歯科医名		診療科・研修施設名	
評価者		評価者区分	□歯科医師　□歯科医師以外（
評価日	年　月　日	評価期間	年　月　日～　年　月　日

評価票Ⅰ（C. 基本的診療業務　1.基本的診療能力）

レベル 1:指導歯科医の介助の下で実施可能 2:指導歯科医がすぐに対応できる状況下でできる 3:単独で実施可能 4:後進を指導できる -:観察機会なし

●：必修、○：選択

	1 想起	2 解釈	3 応用	4 統合	-
●（1） 基本的診察・検査・診断・診療計画：①患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。	□	□	□	□	□
●（1） 基本的診察・検査・診断・診療計画：②全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。	□	□	□	□	□
●（1） 基本的診察・検査・診断・診療計画：③診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。	□	□	□	□	□
●（1） 基本的診察・検査・診断・診療計画：④病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。	□	□	□	□	□
●（1） 基本的診察・検査・診断・診療計画：⑤診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。	□	□	□	□	□
●（1） 基本的診察・検査・診断・診療計画：⑥必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。	□	□	□	□	□
●（2） 基本的臨床技能等：① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。	□	□	□	□	□
●（2） 基本的臨床技能等：② 一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。 a.歯の硬組織疾患 b.歯髄疾患 c.歯周病 d.口腔外科疾患e.歯質と歯の欠損 f.口腔機能の発達不全、口腔機能の低下	□	□	□	□	□
●（2） 基本的臨床技能等：③ 基本的な応急処置を実践する。	□	□	□	□	□
●（2） 基本的臨床技能等：④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。	□	□	□	□	□
●（2） 基本的臨床技能等：⑤ 診療に関する記録や文書（診療録、処方せん、歯科技工指示書等）を作成する。	□	□	□	□	□
●（2） 基本的臨床技能等：⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。	□	□	□	□	□
●（3）患者管理：① 歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。	□	□	□	□	□
●（3）患者管理：② 患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。	□	□	□	□	□
●（3）患者管理：③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。	□	□	□	□	□
●（3）患者管理：④ 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。	□	□	□	□	□
○（3）患者管理：⑤ 入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。	□	□	□	□	□
●（4）患者の状態に応じた歯科医療の提供：① 妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。	□	□	□	□	□
●（4）患者の状態に応じた歯科医療の提供：② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。	□	□	□	□	□
○（4）患者の状態に応じた歯科医療の提供：③ 在宅療養患者等に対する訪問歯科診療を経験する。	□	□	□	□	□
○（4）患者の状態に応じた歯科医療の提供：④ 障害を有する患者への対応を実践する。	□	□	□	□	□

評価票Ⅰ（C. 基本的診療業務　2.歯科医療に関する連携と制度の理解等）

レベル 1:指導歯科医の直接の監督の下でできる 2:指導歯科医がすぐに対応できる状況下でできる 3:ほぼ単独でできる 4:後進を指導できる -:観察機会なし ●：必修、○：選択	1 想起	2 解釈	3 応用	4 統合	-
●（1） **歯科専門職の連携：**① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。	□	□	□	□	□
●（1） **歯科専門職の連携：**② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。	□	□	□	□	□
●（1） **歯科専門職の連携：**③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。	□	□	□	□	□
●（2） **多職種連携、地域医療：**① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。	□	□	□	□	□
●（2） **多職種連携、地域医療：**② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。	□	□	□	□	□
○（2） **多職種連携、地域医療：**③ 在宅療養患者や介護施設等の入所者に対する介護関係職種が関わる多職種チームについて、チームの目的を理解し、参加する。	□	□	□	□	□
○（2） **多職種連携、地域医療：**④ 訪問歯科診療の実施にあたり、患者に関わる医療・介護関係職種の役割を理解し、連携する。	□	□	□	□	□
○（2） **多職種連携、地域医療：**⑤ 離島やへき地における地域医療を経験する。	□	□	□	□	□
○（2） **多職種連携、地域医療：**⑥ がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。	□	□	□	□	□
○（2） **多職種連携、地域医療:**⑦ 歯科専門職が関与する多職種チーム（例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等）について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。	□	□	□	□	□
○（2） **多職種連携、地域医療：**⑧ 入院患者の入退院時における多職種支援について理解し、参加する。	□	□	□	□	□
●（3） **地域保健：**① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。	□	□	□	□	□
●（3） **地域保健：**② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。	□	□	□	□	□
○（3） **地域保健：**③ 保健所等における地域歯科保健活動を経験する。	□	□	□	□	□
○（3） **地域保健：**④ 歯科健診を経験し、地域住民に対する健康教育を経験する。	□	□	□	□	□
●（4） **歯科医療提供に関連する制度の理解：**① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。	□	□	□	□	□
●（4） **歯科医療提供に関連する制度の理解：**② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。	□	□	□	□	□
●（4） **歯科医療提供に関連する制度の理解：**③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。	□	□	□	□	□

評価票Ⅱ　（B. 資質・能力）

レベル				
	1	モデル・コア・カリキュラム相当	3	研修修了時に期待されるレベル
	2	研修の中間地点で到達しているレベル	4	他者のモデルとなり得るレベル

B-1. 医学・医療における倫理性：診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
■医療、歯科医療及び医学・歯学研究における倫理を遵守するために、その重要性を理解し、医療倫理・研究倫理に関する知識と態度を身に付ける。 ■患者の安全を最優先し、常に患者中心の立場に立つとともに、患者の主体的治療参加を促すために、患者の権利を熟知し、その現状と問題点を理解する。 ■豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、人の命と健康を守る歯科医師としての義務と責任を果たす。	□人間の尊厳と生命の不可侵性に関する重要性を理解する。	□人間の尊厳と生命の不可侵性に関して尊重の念を示す。	**□人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。**	□模範となる行動を他者に示す。
	□患者のプライバシー保護の重要性を理解する。	□患者のプライバシーに最低限配慮し、守秘義務を果たす。	**□患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。**	□模範となる行動を他者に示す。
	□患者の安全を最優先し、常に患者中心の立場に立つことの重要性を理解する。	□倫理的ジレンマの存在を認識する。	**□倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。**	□倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づいて多面的に判断し、柔軟に対応する。
	□医療倫理・研究倫理に関する知識を身に付け、利益相反の原則を理解する。	□利益相反の存在を認識する。	**□利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。**	□模範となる行動を他者に示す。
	□診療、研究、教育に必要な透明性確保と不正行為の防止の必要性を理解する。	□診療、研究、教育に必要な透明性確保と不正行為の防止の必要性を認識する。	**□診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。**	□模範となる行動を他者に示す。
総合レベル	□	□	□	□	□	□	□	
コメント							**観察機会なし**	□

B-2. 医療の質と安全の管理：患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
■提供される安全・安心な歯科医療を提供するために、医療上の事故等（インシデントや医療関連感染を含む）は日常的に起こる可能性があることを認識し、過去の事例に学び、事故を防止し、患者の安全確保を最優先するために必要な知識を身に付ける。 ■医療事故が発生した場合の対処方法と予防策を身に付ける。 ■医療従事者が遭遇する医療上の事故等（インシデントや医療関連感染を含む）について、基本的な予防・対処及び改善の方法を身に付ける。	□医療の質と患者安全の基本的知識を身に付ける。	□医療の質と患者安全の重要性を理解する。	**□医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。**	□医療の質と患者安全について、日常的に認識・評価し、改善を提言する。
	□日常業務において、報告、連絡、相談の重要性を理解する。	□日常業務において、適切な頻度で報告、連絡、相談ができる。	**□日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。**	□報告・連絡・相談を実践するとともに、報告・連絡・相談に対応する。
	□一般的な医療事故等の予防と事後対応の必要性を理解する。	□一般的な医療事故等の予防と事後の対応に努める。	**□医療事故等の予防と事後の対応を行う。**	□非典型的な医療事故等を個別に分析し、予防と事後対応を行う。
	□歯科診療の特性を踏まえた基本的な院内感染対策の実践に努める。	□歯科診療の特性を踏まえた基本的な院内感染対策を体験する。	**□歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する。**	□院内感染対策について理解し、実践するとともに、改善を提言する。
	□医療従事者の健康管理の基本的な知識を理解し、自らの健康管理に努める。	□医療従事者の健康管理の必要性を理解し、自らの健康管理に努める。	**□医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。**	□自らの適切な健康管理を実践するとともに、他の医療従事者の健康管理を支援する。
総合レベル	□	□	□	□	□	□	□	
コメント							**観察機会なし**	□

B-3. 医学知識と問題対応能力：最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
■自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身に付ける。 ■科学や社会の中で歯科医学・医療だけでなく様々な情報を客観的・批判的に取捨選択して統合整理し、表現する基本的能力（知識、技能、態度・習慣）・リベラル	□日常臨床において遭遇する可能性が高い疾患とその臨床的特徴を説明できる。	□頻度の高い疾患について、基本的な鑑別診断を挙げ、初期対応を計画する。	**□頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。**	□日常臨床で遭遇する疾患について、十分な鑑別診断と初期対応をする。
	□日常臨床を実施する上で収集しなければならない基本的な患者情報とその歯科治療の適否判断について説明する。	□基本的な患者情報を収集し、医学的知見に基づいて臨床決断を検討する。	**□患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。**	□患者に関する詳細な情報を収集し、最新の医学的知見と患者の意向や生活の質への配慮を統合した臨床決断を行う。
	□日常臨床に対する保健・医療・福祉の各側面の関わりについて説明する。	□保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案する。	**□保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。**	□保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、患者背景やQOLも勘案して実行する。
	□基本的な日常臨床を体験するとともに、それに関連する高度な専門医療について説明する。	□高度な専門医療を要するかどうかの判断を行う。	**□高度な専門医療を要する場合には適切に連携する。**	□高度な専門医療を要する場合には多面的な視点から判断を行い、柔軟な連携を実践する。
総合レベル	□	□	□	□	□	□	□	
コメント							**観察機会なし**	□

B-4. 診療技能と患者ケア：臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
■統合された知識、技能、態度に基づき、患者の立場を尊重しながら、口腔・顎顔面領域を総合的に診療できる実践的能力を身に付ける。	□心理・社会的側面を含めた患者の健康状態に関する情報の理解を判断し、その特徴を説明する。	□必要最低限の患者の健康状態に関する情報を心理・社会的側面を含めて、安全に収集する。	**□患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。**	□複雑な症例において、患者の健康に関する情報を心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
	□一口腔単位の診療計画を立案するために必要な診察および検査を実施し、正しい情報を収集する。	□高頻度に遭遇する典型的な症例において、診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。	**□診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。**	□複雑な症例において、診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。
	□基本的な疾患に対する診療を体験する。	□基本的な疾患の最適な治療を安全に実施する。	**□患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。**	□複雑な疾患の最適な治療を患者の状態やライフステージに合わせて安全に実施する。
	□基本的な疾患に対する診療内容とその根拠を分かりやすい文書として作成する。	□最低限必要な情報を含んだ診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切に作成する。	**□診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。**	□必要かつ十分な診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成でき、記載の模範を示す。
総合レベル	□	□	□	□	□	□	□	
コメント							**観察機会なし**	□

B-5. コミュニケーション能力：患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
■信頼関係を確立するために、コミュニケーションの重要性を理解し、その能力を身に付ける。 ■患者やその家族と歯科医師の良好な関係を築くために、患者の個別的背景を理解し、問題点を把握する能力を身に付け	□許容される最低限の言葉遣い、態度、身だしなみを示す。	□許容される最低限の言葉遣い、態度、身だしなみで患者や家族に接する。	**□適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。**	□適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで、状況や患者家族の思いに合わせた態度で患者や家族に柔軟に接する。
	□患者や家族に対して分かりやすい言葉で話す。	□患者や家族にとって必要最低限の情報を整理し、説明できる。指導歯科医とともに患者の主体的な意思決定を支援する。	**□患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。**	□患者や家族にとって必要かつ十分な情報を適切に整理し、分かりやすい言葉で説明し、歯科医学的判断を加味した上で患者の主体的な意思決定を支援する
	□患者や家族の治療に対する希望を聞く。	□患者や家族の主要なニーズを把握する。	**□患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。**	□患者や家族の背景を理解し、ニーズを身体・心理・社会的側面から把握するとともに、統合する。
総合レベル	□	□	□	□	□	□	□	
コメント							**観察機会なし**	□

B-6. チーム医療の実践：医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
	■患者中心のチーム医療の重要性を理解し、他の医療従事者との連携を身に付ける。	□患者中心のチーム医療の重要性を理解し、連携を体験する。	□患者中心のチーム医療を実践する上で、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携に努める。	**□歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。**	□歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士との役割分担を明確にし、連携、責任体制を考慮して柔軟に実践する。
		□患者中心のチーム医療が構成する職種を理解する。	□患者中心のチーム医療の重要性を認識し、チーム医療の目的と、チームにおける自らの役割を理解する。	**□多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する職種やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。**	□医療を提供する組織やチームの目的とチームの目的等を理解したうえで、チーム医療を実践する。
		□多職種からなる症例検討会等に参加する。	□単純な事例において、チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。	**□医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る。**	□チームの各構成員と情報を積極的に共有し、連携して最善のチーム医療実践に繋げる。
総合レベル		□	□	□	□	□	□	□
コメント							経験機会なし	□

B-7. 社会における歯科医療の実践：医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献す

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
	■地域医療・地域保健の在り方と現状及び課題を理解し、地域医療に貢献するための能力を身に付ける。 ■国際社会における医療の現状と課題を理解し、実践するための基礎的素養を身に付ける。	□健康保険を含む保健医療に関する法規・制度を理解する。	□健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。	**□健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。**	□保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解し、実臨床に適用する。
		□地域の健康問題やニーズを把握する。	□地域の健康問題やニーズを把握する。	**□地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。**	□地域の健康問題やニーズ把握に努め、公衆衛生活動に参画する。
		□予防医療・保健・健康増進の必要性を認識する。	□予防医療・保健・健康増進の必要性を認識する。	**□予防医療・保健・健康増進に努める。**	□予防医療・保健・健康増進に努めるとともに、具体的な改善案などを提示する。
		□地域包括ケアシステムを理解し参加する。	□地域包括ケアシステムを理解し参加する。	**□地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。**	□地域包括ケアシステムを理解し、その推進に積極的に参画する。
		□災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要が起こりうることを理解する。	□災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。	**□災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。**	□災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要を想定し、組織的な活動に柔軟に対応する。
総合レベル		□	□	□	□	□	□	□
コメント							経験機会なし	□

B-8. 科学的探究心：医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
	■生命科学や医療技術の成果について生涯を通じて学び、病因や病態を解明するなどの研究マインドを涵養する。	□医療上の疑問点を探究する必要性を理解するとともに、実際の疑問点を特定する。	□医療上の疑問点への対応を体験する。	**□医療上の疑問点に対応する能力を身に付ける。**	□医療上の疑問点を研究課題に変換し、研究実践に結び付ける。
		□科学的研究方法について基本的な知識を身に付ける。	□科学的研究方法を理解する。	**□科学的研究方法を理解し、活用する。**	□科学的研究方法を目的に合わせて活用するとともに実践する。
		□臨床研究や治験について基本的な知識を身に付ける。	□臨床研究や治験の重要性を認識する。	**□臨床研究や治験の意義を理解する。**	□臨床研究や治験の意義を理解し、実臨床で協力・実施する。
総合レベル		□	□	□	□	□	□	□
コメント							経験機会なし	□

B-9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢：医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
	■歯科医学・医療・科学技術の歩歩と社会の変化（経済的側面を含む）やワーク・ライフ・バランスに留意して、歯科医師としてのキャリアを継続させる生涯学習者としての能力を身に付ける。	□生涯研修の必要性を理解する。	□生涯研修の必要性を理解し、急速に変化・発展する医学知識・技術を吸収する必要性を認識する。	**□急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。**	□急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収のために、常に自己省察し、自己研鑽のために努力する。
		□同僚、後輩、歯科医師以外の医療職から学ぶように努める。	□同僚、後輩、歯科医師以外の医療職から学ぶように努める。	**□同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。**	□同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と共に研鑽しながら、後進を育成する。
		□国内外の政策や医学及び医療の最新動向（新興感染症等を含む。）の把握に努める。	□国内外の政策や医学及び医療の最新動向（新興感染症等を含む。）の把握に努める。	**□国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌等を含む。）を把握する。**	□国内外の政策や医学及び医療の最新動向（新興感染症等を含む。）を把握し、実臨床に活用する。
総合レベル		□	□	□	□	□	□	□
コメント							経験機会なし	□

評価票Ⅲ（A. 歯科医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)）

レベル　1：期待を大きく下回る　2：期待を下回る　3：期待通り　4：期待を大きく上回る　-：観察機会なし	1(※)	2	3	4	-
A-1. 社会的使命と公衆衛生への寄与：社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。	☐	☐	☐	☐	☐
A-2. 利他的な態度：患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する	☐	☐	☐	☐	☐
A-3. 人間性の尊重：患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。	☐	☐	☐	☐	☐
A-4. 自らを高める姿勢：自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。	☐	☐	☐	☐	☐
コメント：印象に残るエピソードなど　(※)レベルが「期待を大きく下回る」の場合は必ず記入をお願いします。					

臨床研修の目標の達成度判定票

研修医氏名:

A.歯科医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)		
到達目標	達成状況: 既達／未達	備　　考
1.社会的使命と公衆衛生への寄与	□既　□未	
2.利他的な態度	□既　□未	
3.人間性の尊重	□既　□未	
4.自らを高める姿勢	□既　□未	
B.資質・能力		
到達目標	既達／未達	備　　考
1.医学・医療における倫理性	□既　□未	
2.歯科医療の質と安全の管理	□既　□未	
3.医学知識と問題対応能力	□既　□未	
4.診療技能と患者ケア	□既　□未	
5.コミュニケーション能力	□既　□未	
6.チーム医療の実践	□既　□未	
7.社会における歯科医療の実践	□既　□未	
8.科学的探究	□既　□未	
9.生涯にわたってともに学ぶ姿勢	□既　□未	
C.基本的診療業務		
到達目標	既達／未達	備　　考
1.基本的診療能力等	□既　□未	
2.歯科医療に関連する連携と制度の理解	□既　□未	
臨床研修の目標の達成状況		□既達　□未達
(臨床研修の目標の達成に必要となる条件等)		

年　月　日

東京西徳洲会病院　歯科口腔外科初期臨床研修プログラム

プログラム責任者 _____